

## テーマ 文化 「郷土芸能と芸術文化の振興のために」

開催日時 平成20年7月30日（水）午後7時～9時

開催場所 あえりあ遠野「やまぼうし」

作成者 市民センター文化課課長補佐 小向裕明

" 社会教育課芸術振興係長 新田正宏

市民出席者（敬称略）

	氏名	性別	住所（町名）	所属・役職等
1	菊池 仁美	女	上郷町	板沢しし踊り保存会
2	奥寺 徹	男	中央通り	一日市南部ばやし保存会
3	佐々木 泰宏	男	土淵町	山口さんさ踊り保存会
4	松田 昭也	男	小友町	鷹鳥屋神楽保存会
5	伊藤 新太郎	男	宮守町	下郷さんさ踊り保存会会長
6	新田 光志	男	東館町	遠野市芸術文化協会事務局長、A・E・L音工房代表（洋楽）
7	後藤 正伍	男	早瀬町	遠野市芸術文化協会理事、絵画グループトオヌップ代表（美術）
8	汀 八ナ	女	大工町	遠野市芸術文化協会理事、日本舞踊遠野若柳吉聖会代表（舞踊）
9	吉田 韶子	女	宮守町	遠野市芸術文化協会理事、白扇流白扇会（舞踊）
10	鳥屋部 景子	女	附馬牛町	遠野市芸術文化協会事務局、龍生派（華道）

	意見・提言の内容	市長のコメント	担当課の意見・回答等
1	学校で郷土芸能に取り組んでいるが、平日日中の指導の際、指導者の勤務先企業へ行政から協力の文書を出してもらえないか。		平日の遠野まつりの際、各企業へ出演者に対する協力依頼を行っているが、平日の指導者への依頼については、学校とも相談して解決策を見出していきたい。
2	鳴り物から消えていく。笛の指導者が高齢のため、笛の継承に難があり、楽譜を作成して子供たちでも演奏できるようにしたい。 勤めで中堅どころが練習にでることができない。踊り手も区内だけでは足りない。	注目、感心度の高いところで継承すること、守っていくことにプレッシャー、悩みもあり大変だと思う。	楽譜作成は、専門家に作成依頼し作成することも可能である。その際、市の補助事業対象にもなるので、活用されたい。 近年、少子化により保存会会員の区域が広範囲化する傾向にあるが、会員維持に努力していきたい。
3	現在、神楽をやれたのは師匠たちが若かったころに教えられた自分の子供のころのビデオがあるからだ。 映像記録が大事なので、映像記録を残すべきだ。 改まった発表の場として神楽共演会には頑張ってお出演するようにしている。会員数が少ないため、地区内の他団体で助け合わなければならない。	映像記録は大事だ。	市では映像記録の事業を行っているので、記録事業へ参加していただきたい。なお、しっかりした映像を残す必要があり、演目ごとに記録に残すことを考える。 発表の場の確保として、遠野郷神楽共演会、遠野郷しし踊り競演会、遠野市民俗芸能発表会開催に支援しているので、大いに出演していただきたい。

			一つの集落で複数の郷土芸能を伝承している集落もいくつかあり、それぞれ頑張っている。伝承活動を継続していただきたい。
4	遠くでの公演の際、大人数での移動に困っている。バスが必要となる。 学校のさんさ踊り指導が平日の昼なので困っている。 子供の人数が少ない。		移動用バスについては、主催者と出演団体の協議により、決めていただいている。 市内の小中学校で行われている郷土芸能の指導は、平日昼の指導が主であるので、学校とも相談して解決策を見出していきたい。 少子化はどここの団体でも同じ問題であるが、少ない人数でも伝統の継承をしていただきたい。
5	子どもたちは、スポーツには一生懸命取り組むが、芸術文化の面では、触れる機会が少ないと思う。学校の道徳の時間などで、生け花など芸術文化に触れる機会を確保できないか。最近、子どもたちの事件が話題になるが、創作活動などを行うことにより心が落ち着く効果もあると思う。		社会教育課が行っている「マナビィクラブ」や地区センターでの各種講座のほか、市民芸術祭などで芸術文化に触れる機会を引き続き確保していく。また、芸術文化協会主催の出前講座を小中学校等にPRし、学校でも取り組んでいるところである。
6	市民センター等で歌や舞踊などの催しがある際は、市で無料バスを出すことはできないか。若い人は、バスや電車も利用できるが、年をとるとなかなか大変である。お年寄りにも、素晴らしい芸術を鑑賞させてあげたい。		多くの方に鑑賞していただくためPRに努めているが、移動については、既存の交通機関や友人らで乗り合わせをしていただくなどしていただきたい。
7	芸術文化にあたっては、好奇心を持つこととよき指導者が大事。多くの人に興味を持ってほしいが、各種イベント等においては、同じ人が取り組んでおり、その他の人をいかに取り込むかが大事である。		ご指摘のことは、地域力を高めていくためには大事なことである。今後とも多くの人に参加し活動しやすい環境作りに努めていく。
8	サークル単独では、参加者を集めるのが大変であるが、まなびのいずみで市が主催で教室への参加を呼び掛けたところ参加者が増えた。社会教育課等の協力があれば参加者が増え、また、市民の学ぶ機会の確保にもつながる。		「マナビィクラブ」は行政と団体とが一体となり教室等を開催しているもので、これまでの団体からは、会員の増加等にもつながっていると好評である。今後とも協働の理念のもと事業を展開していく。
9	遠野市芸術文化協会では、学校等に出向き、芸術文化を指導する出前講座を実施している。子どもの時に芸術文化に触れることは大事なので、PRをお願いしたい。		小中学校等へは、文書で通知するとともに校長会でもPRしているところであり、今後ともPRに努めるとともに、実施の際には、遠野テレビ等を通じて広く周知していく。
10	遠野市民センターを設立した原点に帰って、市民が集う、文化を発信する施設としてほしい。稼働率を上げるためにも、多いに利用していただく施設にという観点にたってほしい。		市民協働の観点からも市民センターは、市民が集う場所であり、施設の活用にあっても皆さんが利用しやすい環境整備に努めていく。
11	市でコンサート等を実施する際、企画の段階から市民の意見を取り入れ、一緒に取り組むことが大事である。		今後も企画の段階から芸術文化協会の役員等と協議しつつ事業を展開していく。